

日本ソーシャルワーク教育学校連盟 関東甲信越ブロック

第13回 ソーシャルワーク教育推進大会

大会テーマ

「新たな時代のソーシャルワーカー養成のあり方」

2017年12月に『地域共生社会の実現に向けた福祉推進について』が発出された。新たな福祉における推進の方向性が示されたといえるが、このような流れの中、ソーシャルワーカーに求められる役割はどのようなものであろうか。今大会では、この新たな時代におけるソーシャルワーカーのあり方について考えていきたい。おりしも、今大会は、日本社会福祉教育学校連盟、日本社会福祉士養成校協会、日本精神保健福祉士養成校協会が統合され、「日本ソーシャルワーク教育学校連盟」が発足して初めての大会となる。社会福祉士と精神保健福祉士は同じソーシャルワーカーでありながら、とかく両者の相違がクローズアップされやすいが、福祉実践現場においては両者の協働を促進することが求められている。社会福祉士と精神保健福祉士、それぞれの養成教育に関わる養成校教員や実習指導者、社会福祉施設・機関の支援者がともに協議し、実践活動に活かしていく上での課題について示唆を得る機会としたい。

ソーシャルワーク教育に関わる養成校教員や実習指導者などの皆様、および高校教員や現場で働いている皆様、また関心をお持ちの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1. 日 時 2018(平成30)年3月11日(日) 10:00~15:30 (受付9:30開始)

2. 会 場 ルーテル学院大学 〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20

3. 主 催 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 関東甲信越ブロック

4. 後 援 公益社団法人 東京都社会福祉士会 (予定)

5. 参加費 1,000円 (学生・大学院生無料)

6. お問い合わせ先

東京学芸大学総合科学教育系 馬場幸子

電話番号: 042-329-7431(研究室直通) / E-mail: sbamba@u-gakugei.ac.jp

ルーテル学院大学総合人間学部 浅野貴博

電話番号: 0422-31-7920(コミュニティ人材養成センター) / E-mail: fukushi@luther.ac.jp

7. 参加申し込み方法

- ・2月28日(水)までにE-mailにてお申し込みください。
- ・件名を「SW教育推進大会申込」として、①氏名、②氏名ふりがな、③所属施設名、④職種、⑤連絡先住所、⑥電話番号、⑦e-mailアドレス、⑧参加希望分科会をご記入の上、ご送付ください。
- ・【申し込み先】上智大学総合人間科学部 高山恵理子研究室
E-mail: t-eriko@sophia.ac.jp

日本ソーシャルワーク教育学校連盟関東甲信越ブロック 運営委員長: 船水 浩行
事務局: 東海大学健康科学部 〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143

プログラム

9:30	受付 ルーテル学院大学 トリニティホール1Fロビー
10:00 ～ 12:00	<p>基調講演</p> <p>【テーマ】「これからソーシャルワーカーに求められる役割と養成のあり方（仮）」</p> <p>【講師】添田正揮（厚生労働省社会・援護局社会福祉専門官）</p> <p>「ニッポン一億総活躍プラン」「経済財政運営と改革の基本方針 2016 について」(H.28.6.2 閣議決定)は、「子供・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる『地域共生社会』を実現する」としている。これを受けた『我が事・丸ごと』地域共生社会実現本部会議では、市町村における地域づくりの取組の支援、総合相談支援の体制整備の推進、「縦割り」の公的福祉サービスの「丸ごと」への転換が求められているとされている。このような中で、これからソーシャルワーカーに求められる役割と養成のあり方について考えたい。</p> <p>【コーディネーター】船水 浩行(東海大学)</p>
13:00 ～ 15:30	<p>第1分科会 実習を通じた自己覚知</p> <p>自己覚知は、ソーシャルワーカー養成教育には不可欠な要素である。本分科会では、実習指導者が、どのように実習生の自己覚知を促したか、また、学生がどのように自己覚知を深めていったのかについて報告してもらい、分科会参加者らと課題意識を共有、参加者各々が今後の実習指導へのヒントを得られることを目指す。</p> <p>【報告者】</p> <p>報告者1 酒井 りさ子（実習生 新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科 ソーシャルワークコース4年）</p> <p>報告者2 海老田大五朗（実習指導教員 新潟青陵大学 准教授）</p> <p>報告者3 栗木 美代子（実習指導者・国分寺市スクールソーシャルワーカー 精神保健福祉士／社会福祉士）</p> <p>報告者4 真下 恵子（実習指導者・母子生活支援施設「さくら荘」・社会福祉士）</p> <p>【コーディネーター】馬場幸子（東京学芸大学）</p>
	<p>第2分科会 実践と研究</p> <p>福祉現場の支援者が専門職として“研究”に関わり、その成果を自らの実践に活用するための手掛かりを得るために、研究に関わる場としての大学院を修了（在籍中）した現任のソーシャルワーカーに自らの経験を報告してもらおう。ソーシャルワーカーにとって研究する意味とは？ 福祉現場で直面する様々な課題に対して、研究という形を通していかに取り組むことができるか？…等について共に考える機会にしたい。</p> <p>【報告者】</p> <p>報告者1 柏木 忠祐（ルーテル学院大学大学院 博士前期課程在籍・社会福祉士）</p> <p>報告者2 長瀬 彩子（上智大学大学院前期博士課程修了・聖路加国際病院・社会福祉士）</p> <p>報告者3 福田 真清（ルーテル学院大学大学院 博士後期課程在籍・ （福）武蔵野会 世田谷区立烏山福祉作業所・社会福祉士/ 精神保健福祉士）</p> <p>【コーディネーター】 浅野貴博（ルーテル学院大学）</p>
15:30	閉会